



TITLE:

支那の富源開放と其社會問題

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 支那の富源開放と其社會問題. 經濟論叢 1919, 9(2): 290-308

ISSUE DATE:

1919-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127556>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第九卷 第二號

大正八年八月一日發行

論 說

住居税の本質及其構造……………

法學博士

神戸 正雄

カーヘンターの社會改革意見……………

法學博士

河田 嗣郎

社會政策より觀たる吾國の財政(二)……………

法學博士

小川 郷太郎

人糞尿の國益(二)……………

法學博士

財部 靜治

植民地の勞働政策(二、完)……………

法學博士

山本 美越乃

時 事 問 題

支那の富源開放と其社會問題……………

法學博士

戸田 海市

銀行の手形引受制度……………

法學士

大森 研造

雜 錄

航空運送……………

法學士

小島 昌太郎

今年度下半年に於ける内地產米の

量、價に就いて……………

法學士

伊丹 萬里

社會問題評論……………

法學博士

神戸 正雄

時事問題

支那の富源開放と其社會問題

戸田 海市

一

各國內に於て下層民の覺醒すると同しく、國際共同生活に於て後進民族の覺醒することか現代の大勢である。故に國內に於て上層者か下層者の向上を不當に抑壓せんとする所の勢力主義、就中資本主義の跋扈を制することか、社會の平和を維持するに必要となれると同しく、強大國の弱小國に對する帝國主義の實行を抑制することが、世界の平和を保つに必要となりつゝあつたが、今次の大戦争は國內及國際に於ける如上の民衆化の大勢を急進せしむるに至つた。予輩は開戦以來本誌に於て從來の我帝國主義的對外策を一變するの必要なることを繰返して主張した。是れ獨り世界の大勢に順應するか爲めのみではない。我國の如く原料食物を汎く世界より輸入して製品を輸出することに由り、國民經濟を維持することを必要とする國に取つては、世界の平和交通か何よりも緊要である上に、愛國心か國民道德上甚た重要な地位を占むる我國に於ては、國家の目

的と行動とか時代思想に照して常に理想的のものであるとか、國民道德を健全ならしむるに必要なからである。而して予輩は諸強國か戰爭の爲めに背後を顧るの違なく、従つて我國か東洋方面に帝國主義を實行するの可能なる時期に於て、自から進んで從來の帝國主義的政策を一變することか、國民の決心を確立する爲めにも、世界の信任を得る爲めにも必要であることを主張したのであるが、我國の政策は概ね之と正反對に出て、山東に關しても獨逸の設定したる勢力範圍の重要な部分を我國に相續することを支那に承認せしむる條約を結ぶに至つた。故に予輩は今回の講和會議を最後の機會として從來の方針を改め、世界各國就中支那に對して富源の開放を要求すると同時に、列國か支那に於て勢力範圍を作ることを相互に禁止し、以て支那の保全を確實ならしむることを提議したのであるが、我政府の講和會議に於ける方針は依然として改められなかつた。獨り我政府のみならず、我國の輿論も亦依然として帝國主義的見地を採つて居る。我國民は常に諸外國に對して支那を保全することを我國の天職なりと論し、又常に日支親善の必要を口にし乍ら、我國自身は大隈内閣時代の日支交渉事件を初めとして山東に關する日支協約に至るまで、總て侵略的の帝國主義と解せざるを得ざる政策を一貫して居る。此の如き經過に顧るときは講和會議に於ける山東の處分に關して今回支那に強烈なる排日運動が起つたことは當然の成行きである。

我國が山東に於て勢力範圍を作ること、は滿蒙に於て之を有すると異り、如何に辯解しても其の帝國主義的行動にあらざることを證明し得ざるは本誌前號に論じた如くてあるか、併し支那が山東處分に關して自ら承認したる日支協約の解除を求めんとすれば、一方に支那も亦富源開放を約して兩國の關係を新原則の上に立たしめねばならぬ。支那が此協約は脅迫に由て成立したるか故に無効なりと主張し、又は支那が獨逸に宣戰したるか故に、曾て山東に關し獨逸に對して認めたる利權は消滅したりと云ふか如き三百的の理屈に訴へて此問題を解決せんとするは甚た不眞面目である。既に屢論したるか如く廣大の領土と豊富なる天然資源とを有する國か之を他國に對して閉鎖し、以て他國の生存を脅かすことか帝國主義の消極的實行であり、從つて其行動が各國互に平等の生存權を認めて之を尊重すると云ふ公正なる國際共同生活の原則に反することは、敢て積極的に他國の領土に對し侵略的行動を採るの不當なるに異らぬ。各國互に富源開放を行ふと云ふ大原則は不幸にして今回の講和會議に於ては未だ成立するに至らなかつたか、他の諸國が富源開放を行はさるか故に、支那が獨り之を行ふの責任なしと論するのは恰も我國の輿論が英佛伊等の諸國も講和條約に依て侵略主義を實行せるか故に、我國が獨り山東に關して公明の態度を採るの責なしと主張すると同しく、共に從來の帝國主義に立脚せる不當の論である。他國は如何に行動するとも、我國は眞に支那を保全して日支親善を實現するの必要があるから、山東の處分に付

でも自から公明の態度を採つて各國の對支行動に準則を與へねはならぬのであるか、一方に支那が富源を開放することは他國の爲めよりも支那自身に取つて必要とする所である、支那の有力なる政治家の一人か巴里に於て諸外國の支那に於ける勢力範圍の撤廢に對し、支那自ら其富源を世界に開放するの意見を發表したと云ふことは諸新聞に傳へられた所であるか、支那政府か山東問題の解決に付て此正當なる主義を採らすして徒らに小策を弄したことは予輩の甚だ遺憾とする所であると同時に、我國か講和會議に於て山東に關し既存の侵略的なる日支協約を固執したことは予輩の更に甚だ遺憾とする所である。支那の講和條約不調印問題か今後如何に成り行くかを問はす、我國の決意か動かさる限り山東問題は恐らく日支協約の通りに決定せられ、從つて我國は新たに山東を或程度の勢力範圍として首府北京に臨み、以て支那の排日思想を益頑強ならしめ、又世界の輿論も自然に弱者たる支那に同情し、我國を東洋の侵略國として批難するの聲か益高まるであらう。若し支那人の反抗が強くなりければ、山東問題も次第に世界の記憶より遠かり、歲月を経過する間に我國か山東に利權を有することか動かし難き既定の事實として承認せられるであらうか、支那の反抗は今後益増長するとも減退するとは考へられない。支那人は獨逸の山東占領には別段の反抗を爲さなかつたか、我國か之を勢力範圍とすることに飽くまで反抗するのは相當の理由がある。支那人の考に由れば日本は先づ琉球臺灣を取り、次て朝鮮より滿蒙に喰ひ入り、

自から東亞の盟主を以て任し、之に對して優越權を主張して止まないから、乘すべき機會かあれは必らず支那本土に喰ひ入るに相違ない。故に強國獨逸か山東に控へて居ることか、日本の侵畧に對する有力の保障となると云ふ考か頗る強く、從つて我國の山東攻撃に際して支那か暗に獨逸を庇護せんとしたことは、以夷制夷の主義を守る所の支那人としては當然である。既に支那人か山東處分に對し飽くまで反抗を續けて之を世界に訴ふるときは、世界の同情か支那に集つて我國に對する世界的批難が高まるのは已むを得ない、此の如き我國に對する世界的批難は覺醒に向ひつゝある我勞動者の思想に惡影響を及ぼし、彼等をして現在の社會組織に對する反感を高めしむる結果となるを免れない。最も一面に支那も山東問題を世界の同情に由て容易に解決し得るものと輕信し、以夷制夷と云ふ傳統的の外國依賴主義を繼續するときは、再び今回の講和會議に於けるか如き失望に陥るの危險が多い。世界の諸強國は外國に對し自國の領土を全く無拘束に處分し得る所有物の如く考へて、外國に對し富源を開放するの責任を感するに至らざるのみならず、機會あれば他國に對して侵畧の手を擴げ、少くとも既往の侵畧的利益を維持して之を失はざらんとし、口には世界の改造を唱へ乍ら實際には不合理なる現狀維持に努めつゝある。此の如き帝國主義的思想よりすれば、我國か山東に對して特殊の地位を占むるに至りたる徑路は最も自然的なるものである。故に若し諸強國か我國に對して公然山東の勢力範圍の撤廢を要求せんとすれば

我國の輿論も亦諸強國に對して其富源の開放と其の世界各方面に於ける廣大の勢力範圍の撤廢とを要求するに至ることか明白であるから、諸強國も充分の決意を以て我國に山東問題の解決を迫るを得ない。只た從來の如く裏面より支那を煽動するに止まり、危機の迫つた場合には支那を見棄て去ること、尙ほ今回の巴里講和會議の場合と同一となるであらう。本誌前號に論せし如く支那の根本の弱點は獨立自主の精神なく、以夷制夷と云ふ外國依頼主義の強きことであるか、山東問題の解決に付ても從來の如く小策を弄して成功せんとすれば必らず失敗に歸せざるを得ない。予輩は此際日支兩國國民か眞に世界歴史の改造に先鞭を着くるの覺悟を以て、斷然既往の世界外交を支配したる帝國主義の過誤を改め、我國は山東に於て勢力範圍を作ることを止め、又支那は汎く其富源を開放することを切望せざるを得ない。我國が新たに支那本土に於て勢力範圍を作るの不當なることは最早や繰返して説明するを要しない事柄であるか、支那の富源開放か支那自身の存立の爲めに必要なることは未だ支那人に汎く理解せられて居ないから、是れより聊か此點を論ずることとする

二

支那の存立上最も緊要なるは社會の秩序を恢復することである。内に秩序の亂れることか外侮を招く重大原因であるから、支那保全の根本は外敵を防ぐよりも先づ秩序を恢復することてなく

てはならぬ。元來社會を組織する各個人、各階級、及各地方の間には協力親和の關係が存すると同時に競争衝突の關係も存するのであつて、後者か前者より強き場合に社會の秩序が紊亂するのである。而して政治上に統一せられたる今日の文明國に於ては、國內の一地方と他地方との利害衝突の爲めに一國の秩序が破壊せられることは殆んど其例を見ざるに至つたが、支那に於ては南北衝突が秩序破壊の最大原因となつて居る。併し交通生活の緊密ならざる支那の各地方の間には、協力關係か他の文明國の如く密切ならざると同時に、其間の利害衝突も少ない筈である。従つて從來の南北衝突と稱せらるゝ現象は眞に地方的利害の不一致に原因するよりも、寧ろ舊思想を有する階級と新思想を有する階級又は在朝黨と在野黨との争ひと云ふか如き一種の階級的の利害衝突が一層強く其内部に働いて居るのである。社會の諸階級間の衝突は廣義に於ける社會問題であるか、支那に於て有力者間の利害衝突か内亂の形を採つて秩序の破壊を來たすか如き激烈のものとなるのは、後に論するか如く無數の貧民階級の存在する爲めである。故に支那の秩序が紊亂して其獨立の危ふせらるゝは、支那特有の社會問題に原因するものとして觀察することを適當とする。

支那の如く經濟が幼稚にして未だ農業國の地位を脱せざる國に於て、社會の上流に位する者は大體政治に衣食するの外はないが、公職は其數が甚だ制限せられたものであるから、之に志す者

か過度に多數なるときは其間の競争か甚た激烈とならざるを得ない。又一般民衆の進歩せる國には有力なる輿論が存在して各政治家の主張の當否を判斷するから、政權の争ひは政黨組織に由り主義主張を以て輿論の判斷に訴へることとなるに反し、支那の如く民衆の蒙昧なる爲めに有力の輿論の存在せざる場合には、政争か甚た不健全となるを免れない。只た有力者か政争を爲すことが直ちに今日の如く繼續的内亂狀態を現出するの原因とはならぬのであるか、支那には一方に秩序を重んずるの念なき無數の貧民が存在し、此貧民か有力者の政争の道具として利用せられる爲めに秩序の破壊を生ずるのである。支那に於ては夙に貧民か無數に發生し、之か處分に付て政治家は大に苦心せざるを得なかつた。之を自然に放任すれば土匪馬賊となつて生命財産を侵し、又動もすれば野心家の手に由て内亂を起すの具に利用せられる。故に此の危險なる貧民を軍隊に收容し、以て秩序破壊の要素を變して秩序維持の具とするの制度か早くより發達した。然るに有力なる民間の輿論の存在せざるか爲めに、一般の公職か私利を營む爲めに濫用せらるゝと同しく、軍隊も有力なる當局者の私兵となつて其政争の爲めに濫用せらるゝのみならず、在野の有力者も比較的僅少の資金に由り貧民を募つて軍隊を作り、比較的容易に内亂を起すことか出来る有様である。

文明國に於て自覺せる下層民か行ふ所の社會運動は大體には社會を改良進歩せしめる健全のも

のであるに反し、支那に於けるか如く無智の下層民か困窮に陥れば或は土匪となり、或は野心家に利用せられて内亂を起すの具となる。此の如き貧民より成る所の支那の軍隊は、其素質が極めて劣悪であるから、眞に國防上の勢力となるを得ざるは勿論、國內の秩序を維持するの具としても訓練せられたる警察機關より劣つて居る。此軍隊か土匪を討伐する爲めに使用せらるゝ場合を見るに、彼等は土匪よりも完全の武器を有し又其人員も多數であるから、相當に討伐の力を有するやうであるか、併し動もすれば土匪以上に良民を掠奪するの弊があり、従つて人民は土匪を防ぐ爲めに軍隊の派遣せらるゝことを欲せず、寧ろ土匪に相當の貢納を行ふて其害を免れんとする場合か少くない。此の如き有害無益の軍隊も之を維持する爲めには巨多の經費を必要とし、支那の國庫收入の過半は之か爲めに消費せられて財政を破産せしめて居る。今日の如く支那の社會に於て、上には識者階級か一般文明國の如く廣汎なる就業を見出し得ずして主に政界に投じ、輿論の監督を受けずして激烈なる競争を行ふと同時に、下には生活に窮せる無數の貧民か存在して居る限りは、到底社會の秩序を維持するを得ない。目下中絶せる上海の和平會議か幸にして再開せられ、更に南北妥協か進行して一時秩序の恢復を見るに至つたとしても、支那の社會狀態か今日の儘に繼續するときは、久しからずして再び秩序か紊亂するを免れない。支那は有害無益なる軍隊を養ふ爲めに財政の破綻を生じ、又此軍隊あるか爲めに軍閥の跋扈を生じ且つ内亂をも生ずるのであるか

ら、軍隊の大減少又は全廢を斷行すへしとの説は早くより起つて居るか、政界の有力者は軍隊を有することを以て其勢力の基礎とするか故に此説か實行せられ難きのみならず、無頼の貧民を軍隊に收容して置けば幾分か規律立つた生活を爲すに反し、之を野に放ては全く無規律なる土匪浮浪となりて社會の秩序を一層強く破壊するてあらうと云ふ不安があつて、軍隊解散問題を輕々に取扱ふを得ないことは注意すべき點である

支那の秩序破壊の原因たる社會問題は之を先進國の社會問題と同様に解決し得ざるは勿論である。或は大規模の海外移民を行ふて國內に残留せる下層民の生存競争を緩和すへしとの説か以前には往々に行はれたが、大規模の移民を行ふに有望なる土地か總て有色人排斥制度を行ふに至つた今日に於て此説の實行か不能なるのみならず、移民を如何に盛んに行ふも之に由て著しく人口の壓迫を減し得ることは何れの國の歴史を見ても明白である、又移民政策に由り幾分か下層民の生活難か救済せられたとしても、更に識者階級を今日の儘に放置するときは矢張り支那の秩序の恢復は甚だ困難ならざるを得ない。今日支那の採るべき只一の策は大に經濟を發達せしめ、特に新式の大企業をも盛んに起し、以て一方に識者階級に對し廣汎なる活動の新舞臺を開き、他方には盛んに勞働の需用を起して下層の貧民を收容するの外はない。若し幸に上海の平和會議が成功して南北妥協か行はるゝことゝなれば、南北双方の軍隊を解散する爲めに多大の經費を要し、

今日の財政狀態よりすれば此經費は外債に由て調達するの外はないのであるが、併し此資金が正
直に軍隊解散の爲めに使用せらるゝことを保障する方法を見出すことか甚だ困難であつて、有
力者に私兵を養ふの資金を新たに供給する結果となるの危険があるのみならず、假令へ其資金が
軍隊解散の爲めに使用せられたとしても、解散兵士は久しからずして再び無頼の貧民となつて社
會の秩序を破壊するを免れない。故に軍隊解散の爲めに巨額の資金を供給する代りに之を實業に
投下し、以て貧民階級に労働者として生活するの途を與ふことを必要とする

支那の秩序の紊亂は支那人の國家思想の不完全とか其公共心の缺乏と云ふか如き道德上の缺陷
にも原因して居る。故に其經濟事情を一新することに由り直ちに秩序の恢復と國勢の發展とを
期待することは容易でない。是れ支那の識者階級の大に反省を要する點であるが、併し一部の論
者の如く支那の前途を全く悲觀し、現存民族の中最も古き歴史を有する支那人は最早と道德的に
廢黜して到底再起の活力を有せずと云ふは誤つて居る。今日の支那に於て上層者も下層者も極度
の生存競争を爲さるゝるへからざるの境遇に陷つて居ることは、如何にも支那民族の健全なる發達
に不利な點であつて、吾人は彼等か此境遇より脱出せんとするの努力に對して充分の同情を有たね
はならぬ。比較的少數の先覺者か奮起して社會の改造を行ふか爲めには支那の國土か餘りに廣大
であり、其人口か餘りに巨多であり、其民衆か餘りに無教育であるが、併し諸強國か公明の手段

に由り其經濟の振興を助くることに一致するときは、自然に支那の社會が整頓して自立自主するに至るの望は充分にある。本來支那民族の素質が世界の諸優等民族に比し決して劣等のものにあらざることは、其特有の文化が非常の高度に進みたるの歴史に照しても多く疑ふの餘地はない。

今日支那に於ける生存競争就中政界に於ける鬭争の有様を見れば、如何にも隱險惡辣にして甚しき道德的廢頽を示して居るか、併し是は主として極度の生存競争を爲さるへからざる境遇に陥つて居る爲めである。本來支那人は我國民に比し寧ろ寛宏の度量を有すと認むべき點も少なくないのである。支那の前途に關し絶望的觀察を下たすことは予輩の取らざる所であるが、併し之を今日の儘に放置するときは甚た危險なることは之を認めざるを得ない。支那の識者にして世界文明と接觸するに従ひ、益自國の境遇の不利益なるを感じ、同時に之より脱出するの非常に難事たるを覺り、従つて之より脱出するか爲めには如何なる極端の手段を取ることをも辭すへからずと云ふか如き意見が次第に強まらんとしつゝある。是れ支那の思想界の潮流が常に順調に進歩するを得たる幸運の我國に於けると大に趣を異にする點である。

目下世人は支那に過激主義が傳播せられ得るや否やを問題としつゝあつて、或は支那には歐米の如く資本主義が未だ發達せざるか故に、又は支那の下層民が先進國の夫れの如く進歩せざるか故に過激主義の有力となることは不能なりと論する者も少なくない。併し過激主義は進歩せる獨

逸其他の西歐諸國に於て有力となり得ると同時に、農業國の狀態を脱し得ずして一體に下層民の無智なる露西亞や匈牙利等にも跋扈し得るものである。社會の内部に於ける腐敗に由り又は戦争や外交上の失敗に由て現存の國家が國民生活に對する價值を失ひ、之か爲め識者階級が現狀に絶望して之に對する執着心を失ひ、又下層民が現社會に對する敬畏の念を失ふて過度の自信力を生ずるときは、過激主義が有力となることか出来るのである。此點より見れば我朝鮮の如きも今後全然過激主義に感染することなしと安心するを得ない。支那の内外の事情は上述の如く其識者階級をして殆んど絶望せしめんとするか如き不利のものである上に、清朝末以來常に社會の秩序が亂れて下層の貧民が社會を敬畏するの念が頗る薄くなつて居る。今回の支那の排日運動に於ても下層民の暴力に依頼せんとするまでに熱中したのであるが、此の如き問題に付き妄りに無理解な下層民の暴力に依頼するとき、下層民は無智なからに過度の自信力を生し來るから、秩序維持の上より見て甚た危險の策である。一方には我國を初め諸強國が支那を壓迫し、之を戰敗國の如き地位に立たしめて支那の名譽を傷け、之か爲め支那の現國家組織を支那人に取つて甚た價值の乏しきものたらしめるときは、過激主義が有力となるの危險がある。要するに支那は過激主義に對し不感染なりと安心することは出来ない。支那の秩序を恢復する爲めには成るべく急速に其經濟を發達せしめ、以て識者階級には新なる活動の舞臺を供し、下層民には生活の安定を與へねばな

三

支那の經濟を振興することか其社會問題を解決して紊亂せる秩序を恢復するに必要なことは上述の如くであるが、無論其經濟の振興には大に外資を利用するのみならず、外國の技術者經營者の力をも利用することを要する場合が多い。然るに戦後の世界に於ては資本が著しく缺乏し、又其の主なる部分は歐洲の恢復の爲めに吸収せられざるを得ないから、支那も之と競争して世界の資本を吸収し、急速に其經濟を發達せしめんとすれば、事業の經營を汎く外人に開放せねばならぬ、固より之に由て支那の主權を害し其保全を危ふするか如き結果を避けんとは、妄りに獨占權又は優先權を與へてはならぬが、一面に於て餘りに外人の企業經營に關與することを制限せんとすれば、支那は戦後に外資を利用することか甚だ困難とならざるを得ない。而して支那には今尚ほ文明國の經濟生活の基本條件と云ふべき整頓せる貨幣制度と交通機關とか發達して居ないから、此兩者は速かに共同借款制度を設けて之か實行に着手するを要することは本誌前號に論じたり如くである。幣制及交通機關は所謂補助的經濟機關であつて、之を整備すれば一般産業が自然に發達することゝなるのであるか、併し單に此兩者の力に依頼するだけでは急速に産業の振興することは望まれない。故に此際支那は同時に農工商の何れかの事業を直接に振興する方法をも

講せねばならぬ。支那は近き將來に於て農業國たるの地位を脱することか困難であるが、更に其農業の中心は食物生産である。此一般農業を振興するには長年月を要するものであり、特に資本や科學の力を之に應用することか困難であるから、一般農業の外に比較的急速な發展を期待し得へき産業を振興せねばならぬ。其産業とは現代的大規模の工業か又は普通農業以外に土地を利用する原始産業の何れかなくてはならぬ。後者の最も有望なるは石炭、鐵、石油等の鑛業と棉花栽培と沿海地方に於ける製鹽業の如きものであつて、俗に支那の富源開發と稱するは此等の原始産業の振興を指すのである。

近來支那に於て綿糸雜貨等の工業が次第に勃興し、特に戰爭以來其勢が特に盛んとなつたから、一部の論者は此際大に工業を振興して經濟財政の一新を圖るべしと主張する。併し支那は現代の工業を起すの要件が尙は甚だ不備であるから、急速に工業を發達せしめんとすれば保護關稅を高くするの外はない、然るに關稅は列國との條約に由て規定せられて居るのであつて、最近の稅率改正に引續きて更に之を引上ぐることを列國に承認せしむることは望み難い。我國の如き關稅率は一割以上二割以内のものが多いとは云へ、戰爭以來の物價の騰貴、就中輸入品の特別の騰貴の爲め實際には稅率が頗る低くなつて居るのであつて、支那の改正稅率は最早や甚しき低率のもので云ふを得ない。而して支那が保護稅に由て起し得る重要工業は何れも日用品を生産する工業

であるから之に高率の保護税を設けることは民衆の生活を壓迫するの不利がある、特に支那に於ては工業發達の要件が不充分である爲め、保護税に由り民衆の生活を苦しむる割合に工業發達の利益を生ずることか少ない。加之各國が互に關稅を引上げて外國品を排斥することは、世界の平和を攪亂するの大原因である。今日直ちに世界を通して自由貿易を實行することは出来ないが、少くとも各國は世界の平和の爲めに成るべく從來の如き排外保護の制度を緩和せねばならぬ。支那は世界の平和の確立を最も必要とする國であるから、自から平和攪亂の大原因たる關稅の引上げを主張することは、其立國の大計より見て甚だ不利である、工業振興は以上の如く困難にして其發達の遅々たるを免れざるに反し、前に述べし原始産業の振興は總ての點に於て有利である。先づ之か振興には關稅を引上げて國民生活を壓迫するの不利なく、一方に世界市場の之に對する需用は甚だ大である。戦後の世界市場に石炭も石油も綿花も穀類も重要な原始生産物は總て缺乏し、且つ此缺乏状態は當分繼續するの傾向がある。是れ歐米が今回の戦争の爲め軍需品生産の工業を盛んに行ひ、之に要する労働者は女子を以て補充せしのみならず、田舎の人口を都會に吸収して工業労働者たらしめた。故に戦後に於ける工業能力は割合に大であるに反し、兵士として又軍需工業労働者として田舎より吸収したる人口を更に田舎に復歸せしむることは頗る困難であつて、今後は永く田舎に於ける労働の不足を訴へることとなる。少くとも都會勞銀に對して田舎の勞銀

の割合を特に引上ぐることを必要とし、従つて原始生産物が割合に高くなるの傾向がある。支那が此の如き時機に於て原始産業を振興することは特に有利である。又支那には工業を起すの要件は甚だ不備であるが、原始産業を興すには極めて有利の地位に立つて居る。支那は人口の稠密なるに反して未開の富源が到る處に横はり、従つて之か開發に必要とする粗大の勞働力は無限に存在するのみならず、之に由て生産したるもの、少なからざる部分は直ちに支那市場に於て之を消化し、又は近く之を我國の市場に供給することも出来る。通例未開の富源の存在する土地は人口稀薄なる爲め其開發に必要とする勞働の供給に困難するのみならず、其生産物は全部之を遠隔の歐米に輸送するの必要があるのであるが、支那は上述の如く總て此等の點に付て有利である。又支那に工業を振興するにも外資輸入を必要とするが、個々の工業的企業に必要な資本は必しも巨大ならざるに反し、之か經營は頗る複雑であつて不斷の監督を必要とし、即ち資本と其の主なる投資者とを分離せしむることか困難であり、従つて工業投資の爲め國際間に資本を移動することは容易でない。然るに鑛業の如き原始産業を起すには最初相當に巨大の資本を必要とするも、其後の經營は比較的に簡易であり、従つて之か爲めに外資を輸入することも工業の場合に比すれば遙かに容易である。此等の點より見れば支那か秩序恢復の爲め成るべく速かに其經濟を發達せしめんとすれば原始産業を振興することを適當とする。支那か汎く其富源を開放することは獨り世

界平和の根本原則に適し、人類全體の福利を増進する所以であるのみならず、支那の自立自衛の爲めにも必要なることは以上に由て明かであらう。

支那が其富源を開放することは支那の經濟振興上最も有效なる原始産業の發達を充分に行はれしむるの結果となるから、何れの國よりも先づ支那自身か最も多く利益する。然るに支那人は或外人か支那の鑛業其他の富源開發業に手を下したと云へば、直ちに外人の爲めに領土の貴重なる一部分を奪ひ去られたものゝ如く考へて之に反對し、一面に諸外國就中我國に於ては自國人か支那に於て或富源開發の事業を行ふと云へば、直ちに夫れだけ領土を擴張し國威を發揚するものゝ如く考へ、特に其富源開發事業を經營せる自國の資本家は世人をして其事業か全く自國の公益の爲めに營まるゝものであり、其事業の生産物は自國人に對し特別に有利の條件を以て供給せらるゝものゝ如く吹聴し、從つて富源領有國は非常の不安を感じると同時に、其開發者の本國に於ては國力に訴へても自國人の利權獲得を援助せざるへからすと考へ、之か爲めに軍備の擴張までも實行せらるゝのである。併し乍ら支那の富源開發事業か公明なる商業上の原則に由て、即ち其生産物を最も強く需用する方面に對して供給すると云ふ營利主義に由て行はるゝ限りは、其事業か支那人に由て經營せらるゝと將た外國人に由て行はるゝとを問はす、支那及世界一般を利益するの點に相違を生しない。只た我國の資本家か之を行ふときは、其資本家か自己の資本を我國内

に運用するよりも一層大なる利息を得るの事實はあるが、一面に我國の資本か外國に出つれば其れだけ國內に於ける勞働の需用が減少して勞働者の不利となることは本誌前號に論じた如くてある、而して今日先進國の資本家か後進國に投資して富源開發事業を行ふに方つては必しも公明なる商業上の原則に由らず、特別に本國を利益するか如き方法を行ひつゝありとは一般に信せらるる所である。此事たる全然無實とは云はれないとしても決して重大の事實とはなつて居らぬ。例へば支那が汎く其富源を外人に對して開放した爲めに我國の資本家か支那に於て一大炭鑛を經營することゝなつたとして、其石炭を支那人や外人には高く賣り、我國民に對しては特別に安く賣渡すと云ふか如きことは、營利上決して大なる程度に行はれ得べきことでない。特に支那の炭業か尙ほ小範圍に行はれて居る間は其經營か何國人なるやは多少利害の相違を生ずることかあるとしても、本來支那には殆んど無限の石炭が埋藏せられて居るから、諸地方に於て盛んに石炭の發掘か行はるゝに至れば各炭業者か互に其販路を競争するの必要を感じ、決して自國人よりも外國人に對して不利益の條例を附するか如き方法を行ふことは出来ない。支那を初め世界一般の富源開放問題を決するに付ては、先づ此點に關する世人の從來の誤解を一掃せねばならぬ。